

社会福祉法人雄仁会 令和4年度 事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1 はじめに

平成18年4月開設以来16年目に入り、3名の医師を含む65名前後の職員にておおむね順調に事業運営を行っております。

「令和4年度事業計画」取組み項目（以下3項目）について事業報告します。

| | | |
|-----------------------|---|--|
| 取 組 み 項 目 | 1 | 当法人の 健全経営 （増収のための経営戦略） 稼働率の目標設定：入所95%、通所75% 経営戦略プロジェクト会議：介護報酬対策と検証、経営改善、医療連携 リスクマネージャーの活用 |
| | 2 | 当法人の 持続可能で安全かつ効率的な施設運営と地域連携 電気、空調、給排水等設備の更新や延命化 事業継続計画（BCP災害編及び感染症編）の策定 職員の安全衛生（メンタルヘルス、ストレスマネジメント、健康管理） |
| | 3 | 当法人の 人材確保とスキルアップ 処遇改善に係る制度取り組み推進、職員研修の充実 看護・介護実習生の受け入れ及び体験学習 |

2 取組み項目1、2、3を踏まえた経営状況等について

(1) 稼働率の状況

※利用状況等実績詳細は【別紙1】【別紙2】

| | 令和2年度末現在 | | 令和3年度末現在 | | 令和4年度末現在 | |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 入 所 | 延利用者 | 27,625 人 | 延利用者 | 27,907 人 | 延利用者 | 27,948 人 |
| | (増減率) | -2.1 % | (増減率) | 1.0 % | (増減率) | 0.1 % |
| | 稼働率 | 92.3 % | 稼働率 | 93.2 % | 稼働率 | 93.4 % |
| | (増減率) | -1.8 % | (増減率) | 1.0 % | (増減率) | 0.2 % |
| | (目標達成率) | 97.2 % | (目標達成率) | 98.1 % | (目標達成率) | 98.3 % |
| 通 所 | 延利用者 | 3,226 人 | 延利用者 | 2,832 人 | 延利用者 | 2,849 人 |
| | (増減率) | -0.9 % | (増減率) | -12.2 % | (前年対比) | 0.6 % |
| | 稼働率 | 62.9 % | 稼働率 | 55.1 % | 稼働率 | 55.4 % |
| | (増減率) | -1.3 % | (増減率) | -12.4 % | (増減率) | 0.5 % |
| | (目標達成率) | 83.9 % | (目標達成率) | 73.5 % | (目標達成率) | 73.9 % |

※増減率：前年同月との比較による増減率

※目標：入所95%、通所75%

介護事業健全経営維持のために、稼働率の目標数値を定めています。

入所：コロナ禍、クラスター発生により一時落ち込みましたが、2月～3月にかけて回復し、目標値を上回るようになってきました。

通所：数年に渡り目標値を下回っています。コロナ禍、クラスター発生により大幅に落ち込みましたが2月～3月にかけて60%弱まで回復しました。

(2) 介護保険事業収入の状況

| | 令和2年度末現在 | | 令和3年度末現在 | | 令和4年度末現在 | |
|----|----------|---------------|----------|---------------|----------|---------------|
| 合計 | 金額 | 399,866,186 円 | 金額 | 397,036,697 円 | 金額 | 401,429,206 円 |
| | (増減率) | -0.9 % | (増減率) | -0.7 % | (増減率) | 1.1 % |
| 長期 | 金額 | 355,061,666 円 | 金額 | 355,169,743 円 | 金額 | 363,063,131 円 |
| | (増減率) | 0.7 % | (増減率) | 0.0 % | (増減率) | 2.2 % |
| 短期 | 金額 | 8,901,918 円 | 金額 | 11,531,118 円 | 金額 | 7,932,865 円 |
| | (増減率) | -39.9 % | (増減率) | 29.5 % | (増減率) | -31.2 % |
| 通所 | 金額 | 35,902,602 円 | 金額 | 30,335,836 円 | 金額 | 30,433,210 円 |
| | (増減率) | -1.3 % | (増減率) | -15.5 % | (増減率) | 0.3 % |

※増減率：前年同月との比較による増減率

(3) 介護報酬改定(令和3年4月～)以降の対応について

改定の主な項目

(※は当法人が取組んでいる事項の中間報告)

- ア、感染症や災害への対応力強化 ※1
- イ、地域包括ケアシステムの推進
- ウ、自立支援・重度化防止の取組の推進 ※2
- エ、介護人材の確保・介護現場の革新 ※3
- オ、制度の安定性・持続可能性の確保
- カ、他（介護保険施設によるリスクマネジメントの強化） ※4

※1 国の制度上定められた各種計画（水防法に基づく避難確保計画、消防法に基づく消防計画、厚労省で定める社会福祉施設における非常災害対策計画）の策定を終えました。今回の改定に基づく「事業継続計画(BCP)」（経過措置3年）については、上記3計画との整合性を図りながら、災害編・感染症編ともに策定中です。

※2 口腔衛生の管理体制を整備し、状態に応じた口腔衛生管理の実施を求められています（経過措置3年）。マネジメント検討を行っています。※翌年度へ継続

※3 介護・看護職員の処遇改善加算制度の給付について、年2回支給から、毎月支給としました（令和3年7月から）。職員の勉強会に、1回につき1,000円の手当を支給し、参加意欲向上とスキルアップを図っています。また、大学生・高校生の研修や実習を積極的に受入れ、将来的な人材確保を図っています。※翌年度へ継続

※4 介護保険施設におけるリスクマネジメント強化のために「安全対策担当者（リスクマネージャー）」を定め、施設や職員の安全管理・安全衛生に努めています。

介護報酬における各種加算や加算型等の確実な算定のため、毎月開催の運営委員会にて、稼働率や在宅復帰率等の数値確認と検証を行っています。また、経営戦略プロジェクト会議にて、LIFE（科学的介護）推進への対応、改定による新規算定項目（口腔ケア、看取りなど）の検討、事業継続計画（BCP）などについて、グループ分けして検討及び策定に取り組んでいます。※翌年度へ継続、経過措置期限までに導入

3 取組み項目1～3を踏まえた施設運営状況等について

施設運営のため、委員会や対策会議を設置し、活動しています。 詳細は以下

※上半期については、前回役員会議案の「中間報告書」をご参照ください。

| 委員会等名称 | | 令和4年10月 | 令和4年11月 | 令和4年12月 |
|------------------|---------------------------------|---|---|---|
| 委 員 会 等 | 運営委員会・ 関連事業等 | 10/13 第7回 | 11/10 第8回 11/25 理事会評議員会 (書面議決) コロナ感染症：クラスター発生 | 12/8 第9回 |
| | 防災委員会 | 10/13 第5回 10/19 秋の防災訓練 | 11/10 第6回 防災訓練総括 | |
| | 安全衛生 委員会 | 10/6 第7回委員会 社用車運転時のアルコー ルチェック導入準備 | 11/2 第8回 | |
| | 安全管理委員会 (身体拘束廃止・ 高齢者虐待防止) | 9/27 小委員会 10/6 第7回委員会 | 11/2 第8回委員会 | |
| | 感染症・食中毒 対策委員会 | 10/11 小委員会 4/14 第1回 | 11/8 小委員会 | 12/13 小委員会 12/15 第8回委員会 ※クラスター発生対応を 省みるアンケート実施 |
| | 褥瘡対策 委員会 | 10/18 小委員会 10/27 第6回委員会 (中止、資料配布) | | 12/20 小委員会 12/22 第7回委員会 |
| | サービス向上 委員会 | 10/4 委員会 10/12 運動会 | 11/1 委員会 11/9,16 ホットケーキ作り | 12/13 委員会 12/21 クリスマス会 |
| | 厨房 | 選択食・郷土食 | 選択食・郷土食 11/16 冷蔵庫更新 | 選択食・郷土食、クリスマ ス、お年とりメニュー |
| 対 策 会 議 | 経営戦略プロ ジェクト会議 | | | 12/21 第4回 LIFE,BCP(災害・感染 症)他、進捗状況確認 |
| | 苦情対策会議 | | | |
| そ の 他 | 研修・実習 参加及び受入 | | 11/7～12/2 介護実習受入 信州介護福祉専門学校 松本短大介護福祉学科 | |
| | 施設営繕 保守管理 | 10/26 エレベーター保守点検 | 11/11 自動ドア、 11/22 ボイラー 保守点検 | 12/21 消防設備 法定点検 |

| 委員会等名称 | | 令和5年1月 | 令和5年2月 | 令和5年3月 |
|------------------|---------------------------------|---|---|---|
| 委員 会 等 | 運営委員会・ 関連事業等 | 1/12 第10回 | 2/9 第11回 2/28 松本市より 社会福祉法人一般指導 監査、及び現地実地指導 | 3/9 第12回 3/24 理事会、 評議員会 (書面議決) |
| | 防災委員会 | | | |
| | 安全衛生 委員会 | 1/5 第9回 社用車運転時のアルコール チェック義務化に伴う機器類導 入準備 | 2/2 第10回 2/1～アルコール チェック運用開始 | 3/2 第11回 3月上～中旬：職員のス トレスチェック実施 |
| | 安全管理委員会 (身体拘束廃止・ 高齢者虐待防止) | 1/9 第9回委員会 | 2/2 第10回委員会 2/28 小委員会 | 3/2 第11回委員会 3/28 小委員会 勉強会(資料) |
| | 感染症・食中毒 対策委員会 | 1/17 小委員会 1/18 第9回委員会 1/26 臨時小委員会 1/30 臨時小委員会 ※アンケート集約・総括 | 2/14 小委員会 2/16 第10回委員会 | 3/14 小委員会 3/22 第11回委員会 |
| | 褥瘡対策 委員会 | 1/24 小委員会 1/26 第8回委員会 | 2/21 小委員会 2/24 第9回委員会 | 3/3 勉強会 3/21 小委員会 3/30 第10回委員会 |
| | サービス向上 委員会 | 1/10 委員会 1/11 繭玉づくり | 2/1 豆まき | 3/1 委員会 3/22 おはぎ作り |
| | 厨房 | 選択食・郷土食 嗜好アンケート実施 | 選択食・郷土食 嗜好アンケート結果報告 | 選択食・郷土食 |
| 対 策 会 議 | 経営戦略プロ ジェクト会議 | | | 3/9 第5回 LIFE,BCP(災害・感染 症)他、進捗状況確認 |
| | 苦情対策会議 | | | |
| そ の 他 | 研修・実習 参加及び受入 | | 2/6～2/11 介護研修 松本短大介護福祉学科 | 3/3 褥瘡対策委員会主 催勉強会 3/20 穂高商業高校生徒 施設見学 3/19～20 3Fステーション キッチン入替工事 |
| | 施設営繕 保守管理 | 1/25 エレベーター 保守点検 | | 3/16～18 全館床 ワックス清掃 |

4 施設運営特記事項と下半期の出来事ピックアップ

(1) 施設運営に関する特記事項について

経営状況について

上半期に引き続き、ウクライナ情勢、物価高騰、諸々の値上り等の影響で光熱水費や諸材料費などの支出額が大幅に増加し、経営を圧迫しました。

更に、11月中旬から12月下旬、施設内でコロナ感染症がクラスター発生し、入退所制限や業務縮小などによる稼働率低下、介護報酬の減収等、痛手となりました。コロナ助成金や介護報酬の増収努力等、財源の確保を行いながら、令和4年度の事業会計は、なんとか黒字決算とすることができました。

令和5年度も、光熱水費や諸材料費等需用費の増大を見据えつつ、収入増を図り健全経営に努めたいと思います。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響について

クラスター発生について

- ・発生時期：上述のとおり、約1か月半
- ・感染者数（延べ）：入所者39名（入所者総数の約5割）
職員 30名（職員総数の約5割）

感染エリアを考慮したゾーニング対策を行いました。併せて、職員の感染による勤務シフトに苦慮しながら、施設全員で乗り切りました。以前に、感染症対策委員会の勉強会でゾーニング研修を行っており、実践に活かすことができました。

今回の苦労と経験を糧に、感染症対策マニュアルや事業継続計画（BCP）の策定においては、より実効性のあるものにしていきたいと思います。

(3) 下半期、のむぎのできごとピックアップ

秋の防災訓練で、新しい訓練（BCP策定に向け、想定被害への対応訓練）を試みました。また、豪雨時の浸水被害に備えた「止水板」設置と水囊作りの訓練を行いました。

- ① 条件（災害の内容）設定：平日業務中、午後2時、震度5強の地震発生
- ② 2班に分かれ施設内をパトロール：予想される、心配される被害を想定してみる



どこが、何が、誰が どうなった!?

(割れた・倒れた・ゆがんだ・ヒビ・停電・断水etc.)

(利用者様：ケガや症状の急変、精神状態のサポートetc.)

豪雨により、駐車場の雨水排水処理能力が限界を超えたときは浸水被害の恐れがあります。正面玄関にて、「止水板」の設置訓練を行いました。



③ グループワーク

どこが、何が、誰が どうなった!?

⇒安全確保のために…

⇒業務を続ける（再開する）ために…

誰が、何を、いつまでに

※作業シートに書き込みながらディスカッション、今後も、このようなパトロールと机上訓練は必要と考えます。